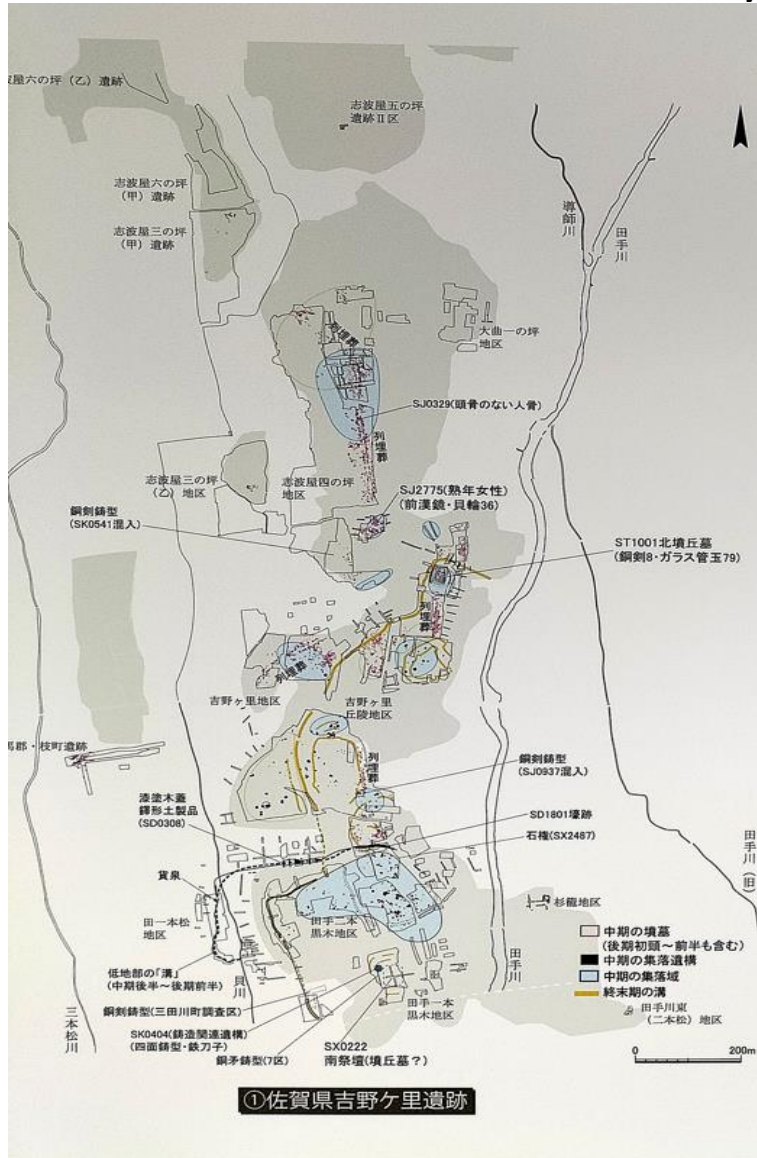


朝日遺跡(清須市)

ここは「あいち朝日遺跡ミュージアム」/朝日遺跡の一角に所在する



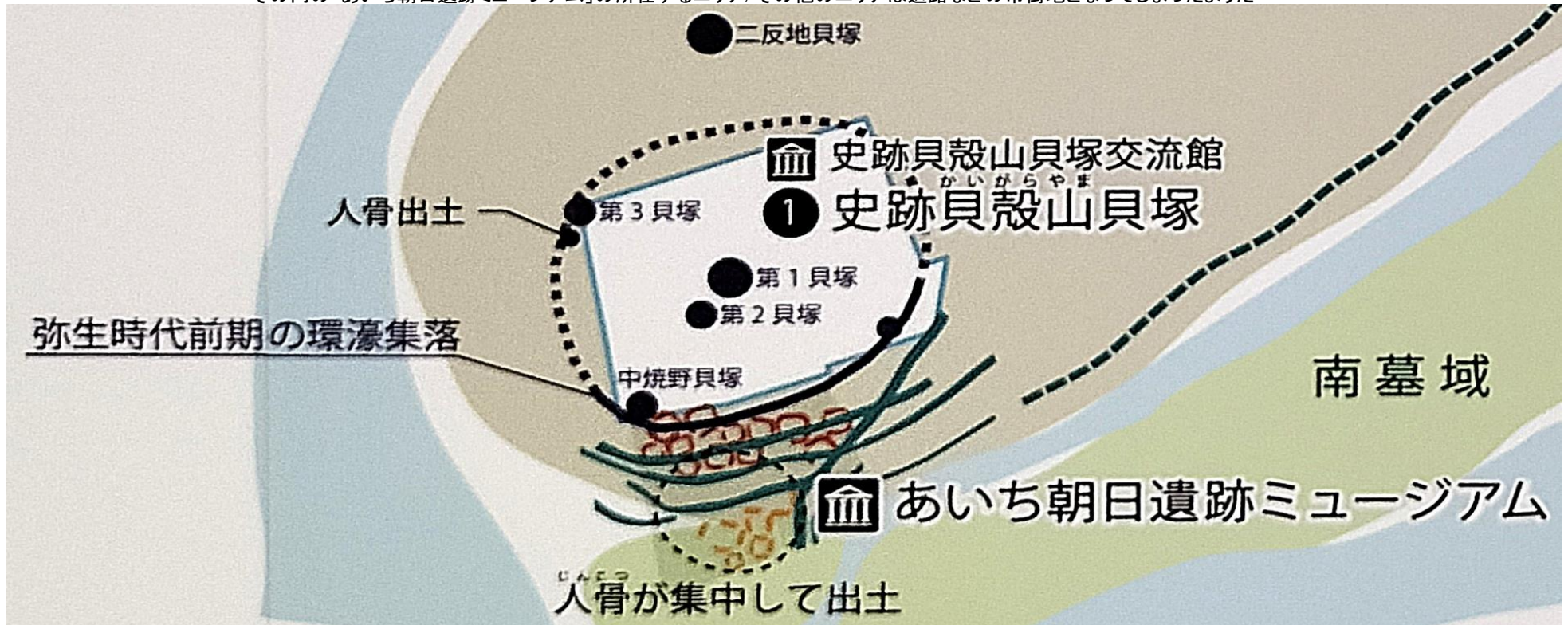
弥生巨大集落の大きさ比較/右下が朝日遺跡



朝日遺跡の拡大図



その内の「あいち朝日遺跡ミュージアム」の所在するエリア/その他のエリアは道路などの市街地となってしまったようだ



ここには「史跡貝殻山貝塚」が展開している

[video](#)



史跡 貝殻山貝塚

貝殻山貝塚とあいち朝日遺跡ミュージアム案内図



○弥生時代の遺構

史跡の地下には、弥生時代の貝塚を中心とする遺構が保存されています。また、弥生時代初期の環濠(堀)と貝層を復元表示しています。

- ① 第1貝塚(貝殻山) ② 第2貝塚
- ③ 第3貝塚 ④ 環濠と貝層断面表示
- ⑤ 環濠平面表示 ⑥ 貝層平面表示

○体験弥生ムラ

史跡に隣接して、弥生時代の生活空間を復元し、季節に応じた体験学習を実施しています。

- ① 復元竪穴住居 ② 復元高床倉庫
- ③ 体験水田 ④ 復元方形周溝墓
- ⑤ 復元竪穴住居(大地遺跡)

○あいち朝日遺跡ミュージアム

東海地方最大の弥生集落「朝日遺跡」を紹介する遺跡博物館。



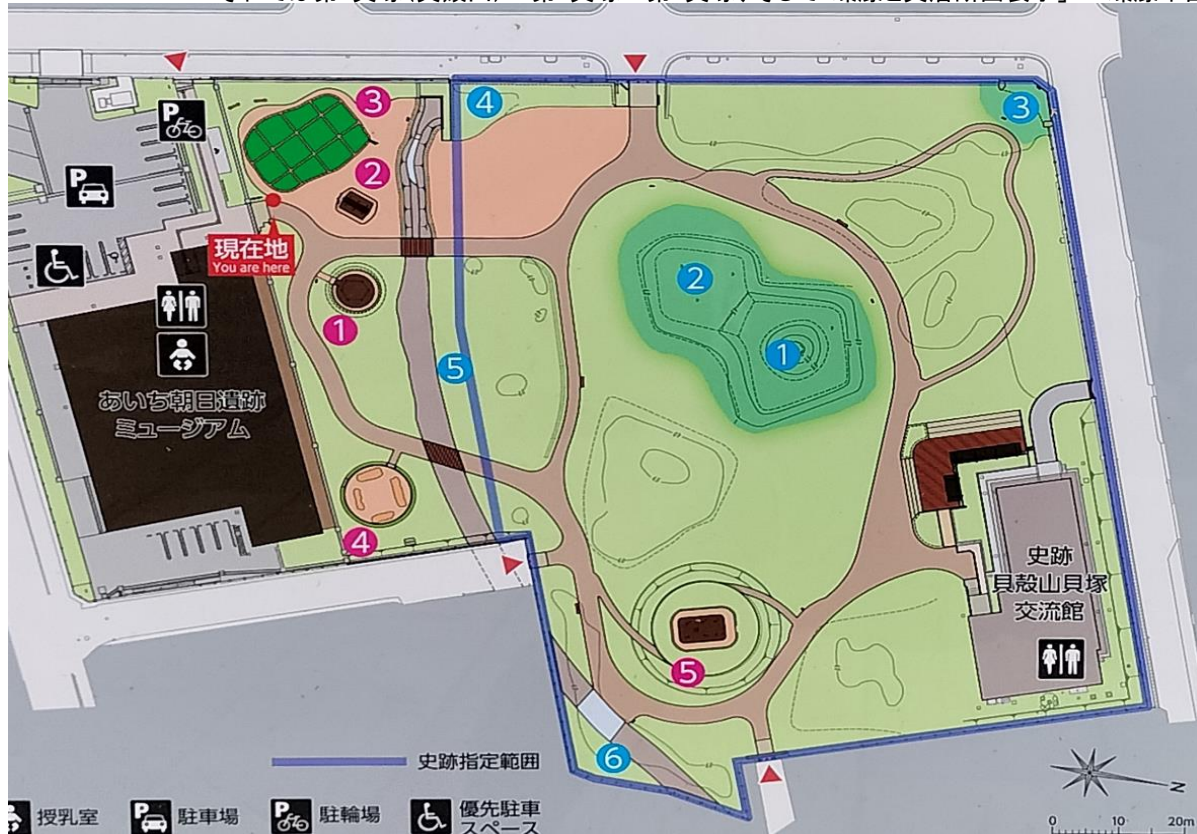
○史跡貝殻山貝塚交流館・

ガイドンス広場

史跡貝殻山貝塚を紹介するガイドンス施設。



それでは第1貝塚(貝殻山)～第2貝塚～第3貝塚、そして「環濠と貝層断面表示」～「環濠平面表示」、及び復元方形周溝墓と回ってみよう



○弥生時代の遺構

史跡の地下には、弥生時代の貝塚を中心とする遺構が保存されています。また、弥生時代初期の環濠(掘)と貝層を復元表示しています。

- ① 第1貝塚(貝殻山) ② 第2貝塚
- ③ 第3貝塚 ④ 環濠と貝層断面表示
- ⑤ 環濠平面表示 ⑥ 貝層平面表示

○体験弥生ムラ

史跡に隣接して、弥生時代の生活空間を復元し、季節に応じた体験学習を実施しています。

- ① 復元竪穴住居 ② 復元高床倉庫
- ③ 体験水田 ④ 復元方形周溝墓
- ⑤ 復元竪穴住居(大地遺跡)

前方が第1貝塚(貝殻山)

[video](#)



第1貝塚(貝殻山)



「貝殻山」と呼ばれてきた塚状の高まりで、
カキ、ハマグリ、シジミからなる弥生時代前期の貝塚です。東海地方の弥生時代の成り立ちを知るうえで、重要な貝塚として注目されてきました。また、尾張地方の弥生時代初期の土器は、この貝塚を標識として、「貝殻山式土器」と呼ばれています。

- 史跡内で確認された貝塚(貝層)
- ↑ 現在地

こちらは第2貝塚

[video](#)



第2貝塚

昭和46(1971)年の発掘調査で厚さ約50～80cmの貝層が確認されました。ボーリング調査により、貝層は径15mほど広がることが確認されています。貝類は主にカキ、ハマグリ、シジミで、弥生時代前期(紀元前6世紀～紀元前4世紀)の土器、石器などが出土しました。



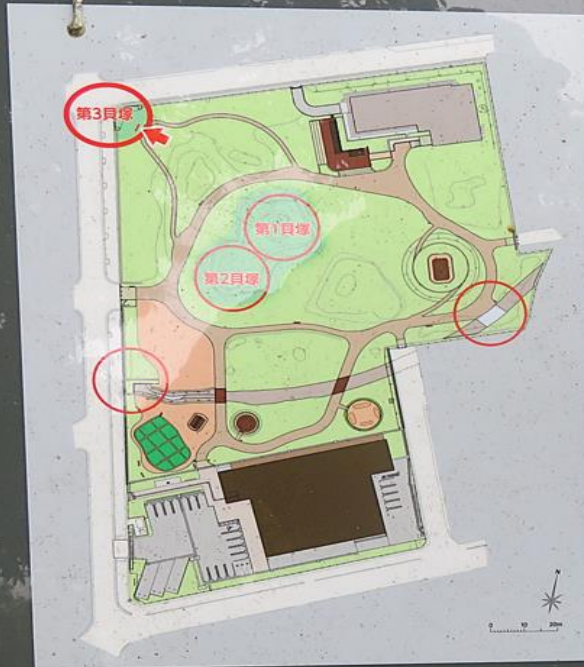
- 史跡内で確認された貝塚(貝層)
- ↑ 現在地

こちらは第3貝塚

[video](#)



第3貝塚



昭和46(1971)年度の発掘調査で、弥生
時代前期(紀元前6世紀～紀元前4世紀)、
中期(紀元前4世紀～紀元前1世紀)、(紀元後
1世紀～紀元後3世紀)の貝層が確認されま
した。最初はシジミを主とする層が堆積し、
その上にカキ、ハマグリを主とする貝層が堆
積していました。また、この貝塚の北西部分
では、弥生時代の人骨2体が発見されました。

- 史跡内で確認された貝塚(貝層)
- ↑ 現在地

前方が「あいち朝日遺跡ミュージアム」

 [video](#)





平成 7・8 (1995・1996) 年度の発掘調査で、史跡指定地の南側に幅 2.5 ～ 4.5m の溝が確認されました。出土した土器は、弥生時代前期から中期初め(紀元前 6 世紀～紀元前 4 世紀)のものが多くみられます。この溝は、居住域をかこむ環濠(堀)と考えられます。

溝には、貝がたくさん埋まっていました。貝はハマグリ、カキを中心とし、シジミ、サルボウ、アカニシなどがみられます。弥生時代、貝殻山貝塚の南には、干潟・砂浜が広がっていたのでしょう。この地域の弥生時代の人々が、海と深く関わっていたことがうかがえます。

貝層断面表示



埋まっていた貝の表示



環濠

 video



環濠の平面表示



環濠の平面表示を反対側から見たところ



これは復元方形周溝墓

[video](#)



これは体験水田





Oryza sativa

イネ

稲。アジアのモンスーン地帯を中心
に世界中で栽培されています。中国
長江流域で栽培化され、日本には
縄文時代晩期末に伝えられました。
炭化米が多数出土しています。



稲の歴史を学ぶ
QRコード000948

イネ科イネ属

この建物は「史跡貝殻山貝塚交流館」





史跡 貝殻山貝塚



史跡全体図



整備される前の貝殻山貝塚
(1965 (昭和 40) 年頃)



再整備後の貝殻山貝塚
(2020 (令和 2) 年)

指 定 昭和 46(1971) 年 12 月 15 日
所 在 地 愛知県清須市朝日貝塚 1
指定面積 10,169 m²

貝殻山貝塚は、^{かいがらやまかいづか}濃尾平野東部に位置する弥生時代（紀元前 6 世紀～紀元後 3 世紀頃）の遺跡です。弥生文化が東海地方に定着していった様子を明らかにする重要な遺跡として、1971(昭和 46) 年に貝塚を中心とした範囲が国の史跡に指定されました。

出土した貝類は、主にカキ、ハマグリ、シジミです。貝塚からは、弥生時代前期から中期初め（紀元前 6 世紀～紀元前 4 世紀）の遺物が出土しています。とくに、西日本の^{おんががわけいとき}遠賀川系土器と縄文文化の系統を引く^{じょうもんけいとき}条痕文系土器が共存する状況は、東海地方の初期弥生文化と在来文化の関係を研究する重要な資料となっています。

また、貝殻山貝塚の北東、清須市から名古屋市西区にかけての範囲には、東海地方最大規模の弥生集落「朝日遺跡」^{あさひいせき}が広がっていることが、大規模な道路建設にともなう発掘調査によって明らかになりました。貝殻山貝塚周辺は朝日遺跡の南西端に位置し、朝日遺跡で最初に人々が住んだ場所だと考えられています。

このエリアから出土した人骨

出土した人骨



1971（昭和 46）年の発掘調査で出土した人骨

1971（昭和 46）年の発掘調査で、弥生時代の貝層から、2 体の人骨が出土しました。いずれも推定身長 160 cm、大人の男性とみられます。これらの人骨は、愛知県で最初に確認された弥生時代の人骨でした。なお、史跡南側の発掘調査では、約 20 体の弥生時代の人骨が出土し、溝で区画された方形周溝墓や土器棺などの埋葬施設も検出されました。

レプリカではなく、本物らしい



出自の異なる複数の系統の土器が発掘されている



さまざまな出自の人々によって集落が営まれていたという

多様な系譜をもつ土器

弥生時代初めの朝日遺跡では、出自の異なる複数の系統の土器が使われていました。その代表が、西日本の弥生文化に由来する「遠賀川系土器」ですが、これはさらに「正統遠賀川系土器」、伊勢地域南部との関係が強い「亜流遠賀川系土器」に分けられます。一方、在来の縄文時代晩期の突帯文系土器から派生した「条痕文系土器」がみられます。さらに、突帯文系と遠賀川系の折衷である「削痕系」、縄文土器のように沈線と区画文で装飾された「沈線文系土器」などがあります。朝日遺跡では、遠賀川系土器を中心に、さまざまな出自の人々によって集落が営まれていたようです。



こちらは「あいち朝日遺跡ミュージアム」





発掘調査に基づく、集落の移り変わりが展示されている



朝日遺跡



上空から見た朝日遺跡周辺(2012年撮影)

朝日遺跡は、弥生時代(紀元前6世紀～紀元後3世紀)をとおりて営まれた集落です。長期間にわたる集落の移り変わりを発掘調査の成果をもとにひもといていきます。

朝日遺跡クロニクル

Asahi Site Chronicle

縄文時代



朝日遺跡で人々の営みが確認できるのは、縄文時代中期(紀元前3000～前2000年頃)の終わり頃からです。この時期に、遺跡の中央を流れる谷状地形(環状谷)が形成され、その周辺から少量の縄文土器が出土しています。谷の両側では、縄文時代後期(紀元前2000～前1000年頃)にドングリの貯蔵穴がつけられていました。

弥生時代前期
(紀元前6～前4世紀)



中央をとおる谷の両側に、貝殻山貝塚をはじめとする貝塚が点在しています。前期の集落は、約150メートルほどの環状集落で、西日本から新しい文化を伝えた瀬戸川式土器を使用する人々が暮らしていました。一方、谷の両側には、環状集落をもたず、縄文時代の伝統を引き継いで縄文系土器を使用する人々が住んでいたようです。

日本の出来事

稲作が伝播、日本列島に広がる

中国・朝鮮半島の出来事

紀元前770～
春秋時代



孔子
BC551頃～BC479

紀元前403 戦国時代



呉王権威



稲刈り



稲

紀元前221

秦始皇帝、中国を統一。朝鮮、度婁衛、百濟、文字などを統一。始皇帝陵・長安・洛陽、万里の長城



はじめとする農耕が広がっています。初期の集落は、から新しい文化を伝えた渡来川式土器を使用するには、環境をもたず、縄文時代の伝統を引き継ぐようです。

弥生時代中期前葉～中葉（紀元前4～前2世紀）



集落が大きく広がり、南陸庄域と北陸庄域、東高城と西高城など、集落の基本的な配置が定まりました。北陸庄域の南側には、環濠・逆茂木・私杭等からなる環濠が築かれました。東高城には大小の方形周溝溝がつけられ、なかには30メートルを超える全国最大規模の環濠もみられます。工器が数えられる玉作りをはじめ、土器、石器、木製品、骨角器など、さまざまなものが行われ、ものづくりと交易の拠点的な集落として発展しました。

弥生時代中期後葉（紀元前2～前1世紀）



河内地域や近畿地方の影響が強くなり、集落の構造にも大きな変化がありました。環濠がなくなり、居住域の区画が不明瞭になりました。集落は小グループに分かれ、古い集落を継いで新しい集落がつけられることもありましたが、中央の谷には谷が深く増進していました。この頃、気候の変化により頻りに洪水が起こったとするデータもあります。

弥生時代後期～終末期（1～3世紀）

弥生時代後期につくられた土器は、弥生時代の土器と区別されます。



稲

漢地皇帝、中国を統一 郡県、度量衡・貨幣・文字などを統一 始皇帝陵・兵马俑坑、万里の長城



万里の長城

金銅器がもたらされる



銅鏡

紀元前202 前漢成立



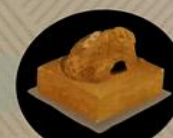
青銅器の製造

紀元前141 武帝即位 紀元前195頃 衛氏朝鮮建国



武帝 在位 BC141～BC87

8 三韓 新を建国



金印

25 光武帝即位 後漢成立

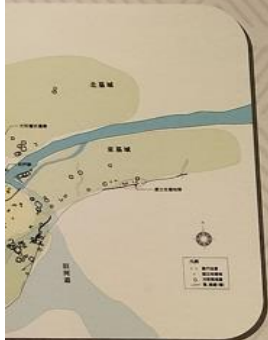
57 倭の成国王、後漢に使者を送る 「漢委奴国王」の金印を語る ([後漢書]東夷伝)



赤鯉の戦い

107

弥生時代後期～終末期（1～3世紀）



弥生時代後期になると、北居住域と南居住域に再び環濠が掘られ、居住域を取り囲むように濠がつくられました。南居住域の環濠の外には、銅鐸が埋納されました。また、北居住域の東側では、水路に設けられたヤナ伏環濠がみついています。弥生時代終末期には、環濠に大量の土器が捨てられ、集落は衰退していきました。

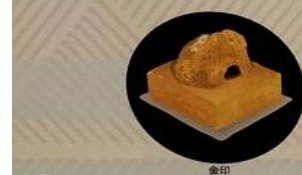


弥生時代後期になると、北居住域と南居住域に再び環濠が掘られ、居住域を取り囲むように濠がつくられました。南居住域の環濠の外には、銅鐸が埋納されました。また、北居住域の東側では、水路に設けられたヤナ伏環濠がみついています。弥生時代終末期には、環濠に大量の土器が捨てられ、集落は衰退していきました。

古墳時代以降（4世紀～）



古墳時代前期までは、わずかに人が住んでいたようです。古墳時代中期から後期には、古墳がつくられました。しかし、集落のあった場所はしだいに荒地となり、人の姿はみられなくなっていました。



金印
25 光武帝即位
後漢成立

57 倭の奴国王、後漢に使者を送る「漢委奴国王」の金印を贈る（『後漢書』東夷伝）



赤壁の戦い

107 倭の国王・卑弥呼、後漢に使者を送る「生口（奴隷）百六十人を安帝に献上する」（『後漢書』東夷伝）

208 赤壁の戦い

220 後漢滅亡

184 黄巾の乱

291 八王の乱

280 晉 中国を統一 304～439 五胡十六国時代

239 邪馬台国の卑弥呼、南方郡や魏に使者を送る魏から「親魏倭王」の称号と金印紫綬などを贈る（『魏志』倭人伝）



卑弥呼

前方後円墳

4世紀半ば 朝鮮半島南部に新羅・百濟・高句麗成立（三国時代）

420 宋建国（南朝）

439 北魏南北統一

391 高句麗高麗王（好太王）即位 南北朝時代に

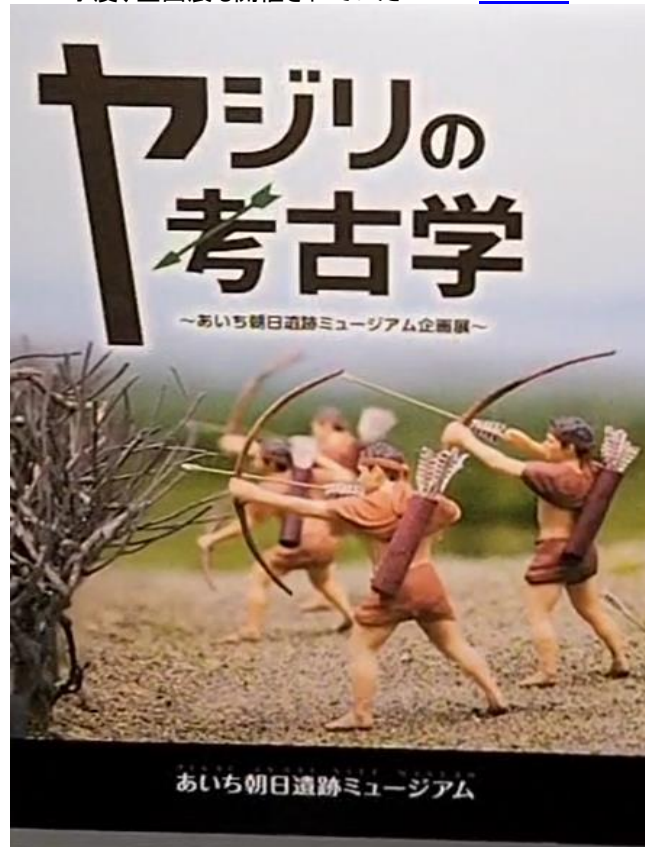
発掘された弥生時代中期末から後期初頭に製作されたという銅鐸

 video



丁度、企画展も開催されていた

 [video](#)



近くにはご当地らしいネーミングの店があった！



ところで、キャプションにあった「弥生巨大集落の大きさ比較」の遺跡位置を見てみると、畿内に邪馬台国があったとすると対峙した狗奴国の拠点が東海地方にあったと考えてもおかしくないようだ...

